

ワールドワイド携帯電話四半期動向

2013年5月7日報告

2013年1Q(1-3月)調査結果 目次

1	2013年1Q (2013年1-3月) 結果の要約	3	6.7.	主要オペレータ加入者数推移の世界全体に占める推定比率	25
2	4-6月の出荷、販売見通し	4	7	端末販売動向推移	26
3	地域別累積加入推移(四半期別)	6	7.1.	2013年1Q端末販売動向	26
3.1.	2011年地域別四半期の修正	9	7.2.	2013年1QのSmart Phone販売動向	29
3.2.	中国、インド、ブラジル、ロシア加入推移	11	7.3.	年別販売台数推移	32
4	方式別加入推移(四半期別)	13	8	主要メーカーの2013年1Q動向	34
4.1.	2011年方式別四半期の修正	16	8.1.	Samsung	34
5	加入者年別推移	18	8.2.	Nokia	37
5.1.	地域別	18	8.3.	Apple	40
5.2.	方式別	19	8.4.	LG	42
6	主要オペレータ加入者数推移	20	8.5.	ソニーモバイル	44
6.1.	アジア	20	8.6.	Motorola Mobility	45
6.2.	西欧	21	8.7.	Blackberry	46
6.3.	東欧	22	8.8.	HTC	47
6.4.	北米	23	8.9.	その他の端末情報	48
6.5.	中南米	23	9	端末各社の出荷計画	49
6.6.	中東/アフリカ	24	10	製品在庫状況ほか	50

2013年1Qの世界の携帯電話市場概況

加入者数推移

2013年1-3月期は需要期のポストシーズンながら、前期の新規加入件数を上回った。中国、インドの新規加入件数が前期の水準を上回り、グローバルの加入に影響を与えた。

本報告書では2011年末と2012年末の97カ国の加入状況を精査し前回報告書に対し数値修正を行った。年度末の修正に伴い2011年1Qから2012年3Qの7期について遡って修正を行った。

2013年の加入見通しは2012年の新規加入件数をやや上回るものの、長期トレンドでは2010年でピークアウトし、2011年以降は緩やかな下降局面をたどるものとみられる。

端末需要

1Qの端末販売台数は季節性から前期を下回った。Smart Phoneは前期比で販売台数を減らしたもののほぼフラットで推移した。その結果前期比大幅減のフィーチャーフォンに対して初めて台数ベースで上回り、Smart Phoneがフィーチャーフォンを越える初の四半期になった。ミッドエンドフィーチャーフォンは今後ローエンドSmart Phoneに置き換わり、Smart Phone比率はさらにウエートを高めてくるものと予想される。

1QではSamsungがSmart Phone市場を牽引し、総端末台数シェアで30%、Smart Phoneシェアでは35%に達した。1Qで前期を上回ったのはSamsung以外ではLG、ソニーモバイルのみで、中国メーカーを含む上位メーカーは軒並み販売台数を減少させた。Samsungの躍進はAppleの低迷も影響しており、Apple iPhoneは前期に対して1,000万台前後販売台数を下げ、SamsungのSmart Phoneシェア拡大を許した。

2QのSmart Phone市場はSamsung、LGがシェアを上げ、Appleはさらに後退する見通しである。特にSamsungはフラグシップGalaxy S4を4月に投入したため、iPhoneが発売されるまでの2Qと3Qはシェア競争で優位な立場に立っている。ただGalaxyの圧倒的な市場占有率にネガティブな購買者も増えており、Smart Phone上位メーカー間でシェア分散化の余地も残している。

2Qではフラグシップを擁してHTCとBlackberryの急回復が予想され、NokiaもLumiaのプロダクトミックスに一定の目途が立ち、増加基調を辿るものとみられる。Smart Phone市場を牽引する中国市場はローエンド指向が強く、国産系を中心として特異な発展を継続、2Qも国産勢を中心に増勢を強めてくるものとみられる。

2QではNokiaのフィーチャーフォン動向も注目点になる。Nokiaは1Qでフィーチャーフォンの出荷量を大きく減らしたが、2Qでは満を持して超ローエンドNokia 105をリリースする。Nokia 105は超ローエンド分野のトップモデルになり、2Q以降の数量ベースの急速な拡大と業績への貢献が期待できる。NokiaはSymbianからLumiaへのSmart Phoneシフト、リストラ、生産拠点の削減などコスト面での戦略転換を迫られたが、1Qでボトムアウトし、再成長に向けた明るい兆しが出始めた。